

# 千葉県畜産総合研究センターの概要、業務集約の方向性

## 設置目的

安全で高品質な畜産物を効率的に生産するため、先端技術等を活用して畜産農家が求める生産性の高い革新的な技術を創造するとともに、地域資源の循環利用を中心とした環境にやさしい畜産技術の開発を行うことを目的として設置

## 組織体制

### 千葉県畜産総合研究センター本所（八街市）

- 総務課
- 企画環境研究室
- 乳牛肉牛研究室
- 養豚養鶏研究室
- 市原乳牛研究所（市原市）
- 嶺岡乳牛研究所（南房総市）

#### ①本所

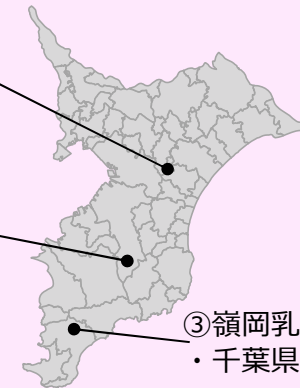
- 企画環境研究室
- 乳牛肉牛研究室
- 養豚養鶏研究室

#### ②市原乳牛研究所

- 受託牛の育成放牧場

#### ③嶺岡乳牛研究所

- 千葉県酪農のさとが併設



## 業務の集約

### 市原

～育成牧場の運営に特化～

| 現行   | 再編後  |
|------|------|
| 育成牧場 | 育成牧場 |
| 乳牛   |      |
| 飼料   |      |

### 本所

～分野横断的な研究体制の構築～

| 現行 | 再編後            |
|----|----------------|
| 乳牛 | 乳牛（集約）         |
| 肉牛 | 肉牛             |
| 養豚 | 養豚             |
| 養鶏 | 養鶏             |
| 経営 | 経営             |
| 環境 | 環境             |
| 飼料 | 飼料（集約）<br>災害支援 |



乳牛の飼養管理技術の研究



優良種豚の造成



放牧育成



飼料作物の気候変動試験の実施

### 嶺岡

～牛の改良拠点として特化～

| 現行    | 再編後             |
|-------|-----------------|
| 乳牛の改良 | 乳牛の改良           |
| 飼料    | 黒毛和種の改良<br>災害支援 |

## 今後の方向性

- 限られた人員を集約し分野横断的な研究体制を構築
- 黒毛和種を含めた高品質な牛受精卵の作出・供給体制を構築
- 受精卵移植技術者の人材育成体制を強化

# 千葉県畜産総合研究センターの機能強化に向けた基本構想（試験研究の方向性）

## 基本的な方向性

生産性向上やコスト低減等による収益性の高い畜産経営の実現や持続可能な畜産物生産への取組を推進するため、育種改良による能力の高い家畜の作出や、デジタル技術の活用による効率的な生産システムの開発・実証、耕畜連携による循環型農業の推進などの現場の課題にスピード感をもって対応できるよう畜産総合研究センターの機能を強化する。

### 本県畜産の現状と課題

#### 1 生産コストの増加

- 飼料・資材価格の高騰
- 輸入飼料への依存大

〔課題〕 ●コスト低減 ●国産飼料の生産拡大

#### 2 生産規模の二極化の進展

- 県南地域における規模拡大の限界
- 労働力不足

〔課題〕 ●生産性の向上 ●効率的な管理

#### 3 県産畜産物の認知度が低い

- 主に日常使いとして消費されている
- 全国的に知られているブランドが無い

〔課題〕 ●特色ある畜産物の生産

#### 4 生産環境の変化

- みどりの食料システム戦略
- 温暖化や家畜疾病など環境の変化
- アニマルウェルフェアの世界的な広がり

〔課題〕 ●耕畜連携の推進  
●気候変動への対応

### 畜産総合研究センターの現状と課題

#### 1 研究環境の変化

- 生産者が抱える課題の複雑化や高度化
- 施設の老朽化・設備の旧式化

〔課題〕 ●生産現場における課題の抽出  
●効率的な研究体制の検討  
●畜舎の再整備の検討

#### 2 畜産農家等への貢献

- 生産者ニーズの変化

〔課題〕 ●生産者ニーズとの乖離

### 試験研究の方向性と具体的な取組

#### 1 収益性の高い畜産経営の実現に向けた研究の推進

##### 生産コスト低減

- (1) 低コスト化のための飼料給与技術の開発・実証

●栄養バランスの最適化技術

##### 国産飼料の生産拡大

- (2) 輸入飼料に過度に依存しない飼料生産利用技術の開発

●高収量と高品質な飼料作物の生産技術

##### 生産性の向上

- (3) 生産性向上に向けた育種改良と飼養管理技術の開発・実証

●ゲノミック評価やデジタル技術の活用

##### 特色のある畜産物の生産

- (4) 特色ある畜産物の生産技術の開発・調査

●おいしさなどの評価手法技術

#### 2 持続可能な畜産物生産を目指した研究の推進

##### 耕畜連携の推進

- (1) 地域と共存する畜産経営の実現に向けた研究

●家畜排せつ物の管理技術と循環型飼料生産技術の開発

##### 効率的な管理

- (2) データ活用等による効率的な飼養管理技術の研究

●デジタル技術や自動機械を活用した省力管理技術の開発・実証

##### 気候変動等への対応

- (3) 気候変動や家畜疾病、アニマルウェルフェア等への対応

●気候変動等に対応した管理技術や飼料の生産技術の研究

### 研究体制における具体的な取組

#### 3 効率的・効果的な研究体制の構築

- (1) 普及組織との連携強化

●フィールド試験の積極的な活用

- (2) マネジメント体制の構築

●国や大学、民間企業との共同研究の推進、研究者の育成

- (3) 現場に対応した試験研究に取り組むための環境整備

●分散している研究体制の再編、施設の再整備

（環境制御型畜舎、スマート畜産の実践、アニマルウェルフェアへの対応）

##### 研究体制の強化

#### 4 畜産農家等への支援業務の充実

生産者ニーズに合わせたサービスの提供

●優良遺伝資源の供給

●研修会等の開催や研究員の派遣による畜産農家の技術向上

●畜舎整備を含めた受託体制の充実による育成牧場の利便性の向上

##### 業務の充実

### 目標（畜産農家の姿）

#### 稼げる畜産経営

○収益性が高く、ゆとりある畜産経営

○コストを低減し、効率的・省力的な生産システム

○輸入飼料価格に左右されない安定経営

○美味しい畜産物の安定生産

